

「討議の集い：深耕をつなぐ」の報告

10. 09. 30 永野紳一郎、富樫豊

テーマ：「夢と希望」

日時：2010年9月10日(金)18:00～20:30

会場：富山大学生協食堂

討議の集いは、実務・研究・教育の風通しの良いコミュニケーションを図ることを目的として、9年前、本会大会が金沢で開催されたときに大会関連行事としてスタートし、その後、大会開催に合わせて実施されてきております。3年前からは、若い方と大人の交流を積極的に行うことにして、学生シンポジオンの終了後に実施するようになり、文字通り、老若男女、交流の場となりました。

今回の集いは、「夢と希望」をテーマに、(午後に開催された)語り合いのシンポジオンの余韻をそのままに、場所を変えて参加者間でより一層のテーマを掘り下げることにして、参加を広く呼びかけましたところ、若者は3大学から14人、建築人(大人)は4人の計18人が集まり、夢や希望を大いに語り合いました。

集まった建築人は、4名と少ないものの、いずれも個性的な方々であったためか、議論は、「そもそも人間としてあるべきとは何か、大学は使命を果たしているのか、建築学会の役割とは何か、など」の根本的・根源的な問いかけからスタートしました。

以下に、特徴的な意見をグルーピングして列挙します。

(1) 建築そのものについて

- 「建築」は、まず経済性を先行させて、その上で技術を展開して欲しい。建築学会では、経済性の論点が弱い。
- 大学は行政と企業をうごかさなくてはならない。連携などといった程度のもではなく、もっとリーダーとして。経済的視点で研究費をもっと集めてくる必要がある。
- 産官学連携として、学が指導的立場にあるが、もっと産官を知ることが必要である。その意味で、大学教員の企業へのインターンシップは面白いであろう。

(2) 愛とロマン

- ロマンは愛。愛は語り。夢が無いのは大人です。
- ロマンはまず遊びから始まります。子供が遊ぶなくなっているのは、大人が遊びを忘れているからです。学生諸君、大いに遊びましょう。
- 夢をみることでできない環境が大いに問題です。
- 自分たちで挑戦対象を発見し、挑む姿にとっても感心し「学生っていいなあ」「若いっていいなあ」と改めて感じる機会となりました。
- 学生時代を終えても、今なお夢と希望を持ち、それに挑戦し続ける姿勢をくずさない(ことが大事です)。

(3) シンポジオンの感想として；

- 建造物群をグループで自由に制作しているチームがありました。いいですね。今後はもっとまとまりを入れるとさらに良いものになりますね。
- 現実の土地をあてがってのものづくりは、ものすごく楽

しそうに見えました。いいなあ。

- 子供といっしょになって、生活空間作りといういわば交流もいいですね。
- 他の(学生)チームもがんばっていることがわかりました。面白かったです。交流をもっとしたい。
- 自分たちが「楽しんで」事業に参加していることや、そのことに「誇り」を持って挑んでいることを一生懸命話しておられた。



熱弁をふるう建築人達



資料に目を通す、後にサプライズ



白熱の議論

まとめとして、ある建築人の方にしていただきます。

新たな挑戦を通して、新たな自分・世界を知ることや、体験し成長する皆さんの姿にロマンを感じました。またその気持ちは自分次第でいつまでも持ち続けることができるのだと、「夢と希望」への熱い思いを呼び起こされました、良い会だったと思います。